



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

# 園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.11月号

## 運動会の事を書きたくて・・・

雨のため一週間延期になった運動会でした。この日が本番と思って頑張ってきた体もそうですが、気持ちを持続させることはおとなでも難しいことです。子どもたちにとっても同じです。それでも迎えた当日は、ひとりひとりがその子なりに頑張って、張り切って、そして楽しんでいたように思います。(もちろん緊張の中にいた子もありますが、それもまたその子らしい姿として)そしてやはり今年も楽しませてもらったのは、おとなの綱取り。後から聞いたことですが、お母さんたちは公園に集まって自主練習もしていたとか。それほど気合いがはいていたのです。大人たちからみなぎる緊張感。顔つきも目つきも、いつものお父さんやお母さんではありません。見たこともないような形相で綱をめがけて走りこみ、力の限り引き合う姿。大きな掛け声と声援。本気で一生懸命。夢中になって仲間と力を合わせ一つになって。そして力を出し切ったその姿、表情。子どもたちは一部始終を目に焼き付けました。あまりの気迫に圧倒されたかもしれません。ちょっと怖いと思ったかもしれません。でも、身近なおとなの本気で頑張る姿・仲間と力を合わせる姿・心の底から笑顔になっている姿を目の当たりにすることは、正に百聞は一見にしかず。『友だちと力を合わせて頑張ることは大事なことだよ』と100回言葉で繰り返すより、ずっとストレートに“大事”の意味が伝わったはず。こんな人になってほしいと望むなら、そんな姿を見せること。100回ガミガミ言うよりも、ずっとインパクトがあるかもしれません。というわけで来年も おとなの綱取り やります。ばら組さん、よろしく！ そして午前の競技のラストを飾った クローバー組のリレー正味3週間ほどの練習でしたが、ひとりひとりの子どもの3週間にストーリーがあり、それぞれのチームにストーリーがありました。そのすべてが本番、たった一回の走りの中に凝縮されているのです。ドキドキして緊張して、泣いたり笑ったり、怒ったり。練習を重ねるごとに始めた頃にはわからなかった、仲間と力を合わせた事がひとつの結果に繋がるというリレーの意味も次第に理解できるようになりました。仲間が頑張っていることを認めること、励まし諦めない、仲間の分まで頑張ること。ただ走るのではない、そこにはいろんな気持ちがあるんだということに気付いていく。だから勝てば凄く嬉しいし、負けた時には悔しい涙が溢れてきます。まだ5歳・6歳の人たちがこんなに深く複雑に心を揺さぶられる経験はそうできることではありません。本気で一生懸命でなければ、こんなに嬉しくならないしこんなに悔しくもならない。自分だけが頑張っていると誰かを責めてもチームの力にはならない。緊張を乗り越えて誰もが精一杯やって、それを認めて、補い合っただけでひとつになった結果がそこにある。子どもたちはそんなに難しいことを考えて走ってきたわけではないけれど、私たちは子どもたちが、かけがえのない経験をしていることを目の当たりにするのです。だから、涙が溢れてきます。わたしたちは、これを誰もが得意でないことを知っています。緊張で苦しくて辛いことも知っています。それでも経験してほしい事がここにはいっぱいあるので。来年もまたみんなが本気で一生懸命、そして笑顔になれる運動会をしたいと思います。